

うっしっしいー情報2017

5月市



豊岡農業改良普及センター

5月10日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が85万7千円、雌が77万2千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
篠山	4	1.026	867,780	9	0.865	880,920	13	876,877
丹波	19	0.979	868,377	27	0.843	759,120	46	804,248
朝来	8	0.918	868,860	6	0.852	895,680	14	880,354
播磨	15	0.946	839,448	14	0.866	737,949	29	790,448
美方郡	42	0.966	861,069	46	0.836	767,598	88	812,209
豊岡	14	0.973	851,503	12	0.876	762,840	26	810,582
養父	7	0.953	872,177	5	0.849	769,392	12	829,350
摂津・神戸	5	0.950	832,680	8	0.871	774,495	13	796,874
県北C	11	0.907	848,782	8	0.783	737,235	19	801,815
市場全体	133	0.959	857,114	141	0.845	772,361	274	813,500

5月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸宮土井	17	0.955	887,569	20	0.840	847,260	37	865,781
2	芳悠土井	28	0.980	876,883	34	0.855	784,906	62	826,444
3	芳山土井	28	1.004	872,871	25	0.854	766,454	53	822,675
	総計	133	0.959	857,114	141	0.845	772,361	274	813,500
4	千代藤土井	15	0.947	826,560	20	0.856	767,070	35	792,566
5	照忠土井	28	0.928	834,879	32	0.835	729,945	60	778,914

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸宮土井	B	B	A+	A++	A++ → A+	A++
2	芳悠土井	A+	A	A	B	A	A+++
3	芳山土井	A+	A++	A++	C	A+	A++ → A+
4	千代藤土井	A	A+++	D	A+	A++	A++
5	照忠土井	B	A+++	A+ → A	A+	A+++	A+

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成29年1月現在)

但馬牛が早熟化している!?

～2016年版但馬牛発育曲線からわかること～

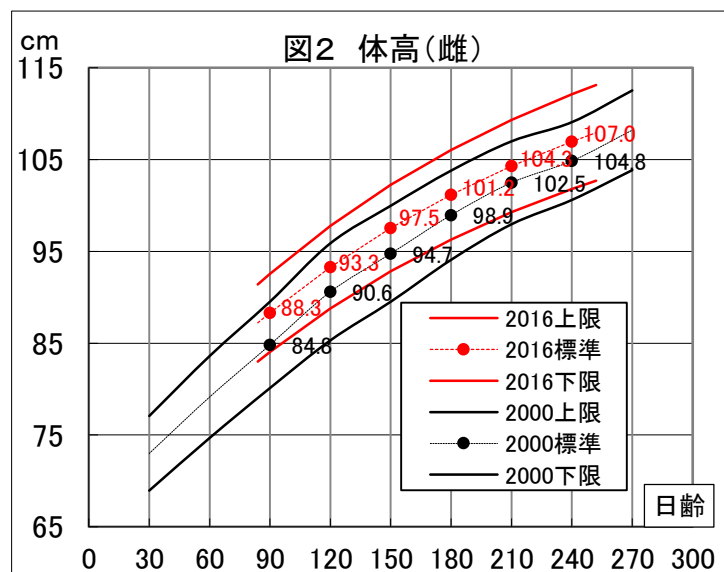
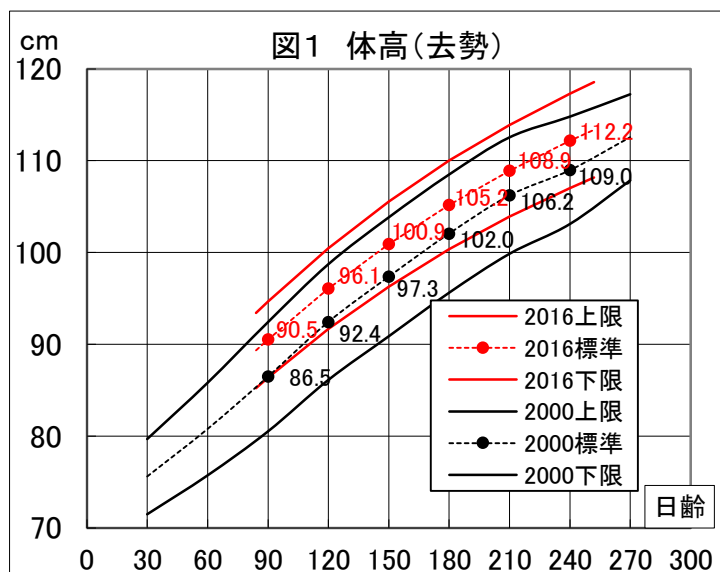
1. はじめに

今年の3月、新たに2016年版但馬牛発育曲線が作成されました。今回はこの発育曲線と2000年版発育曲線を比較し、ここ16年で子牛の発育がいかに変ったかを考察したいと思います。

2. 2016年版と2000年版の発育曲線の比較

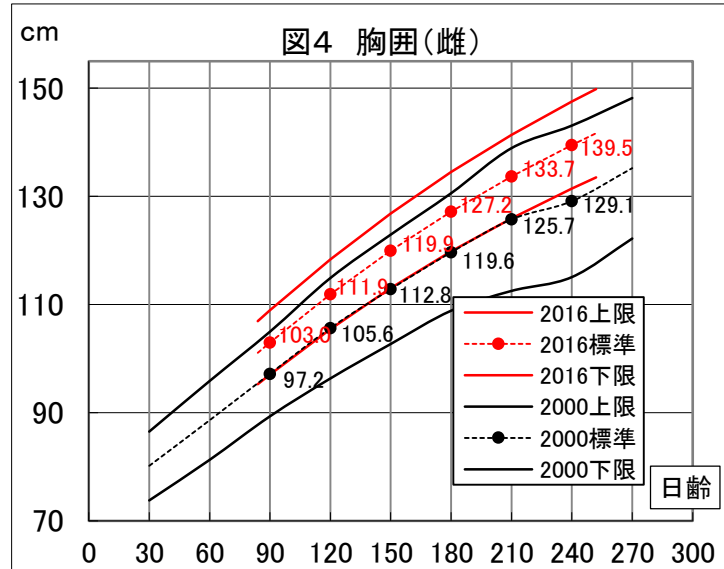
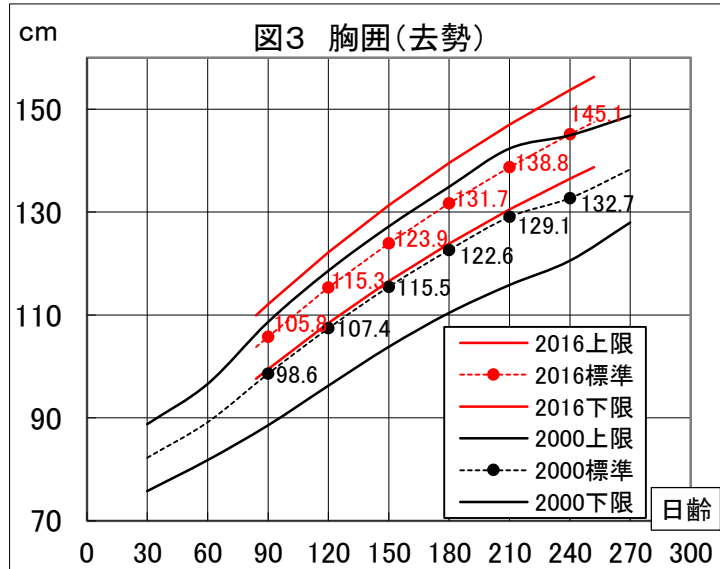
1) 体高

2016年版の標準値は、去勢・雌とも2000年版の標準値と上限値の中央付近で推移し、去勢で3～4cm、雌で2～3cm、2000年版を上回っています。一方で、90～240日齢の発育の伸びを見ると、2016年版で去勢21.7cm、雌18.7cmであり、2000年版では去勢22.5cm、雌20.0cmと2000年版の方が上回っています(図1,2)。



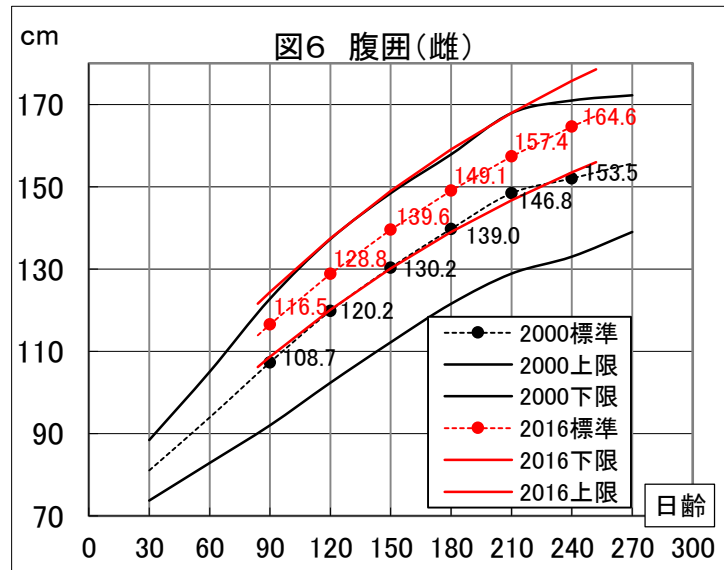
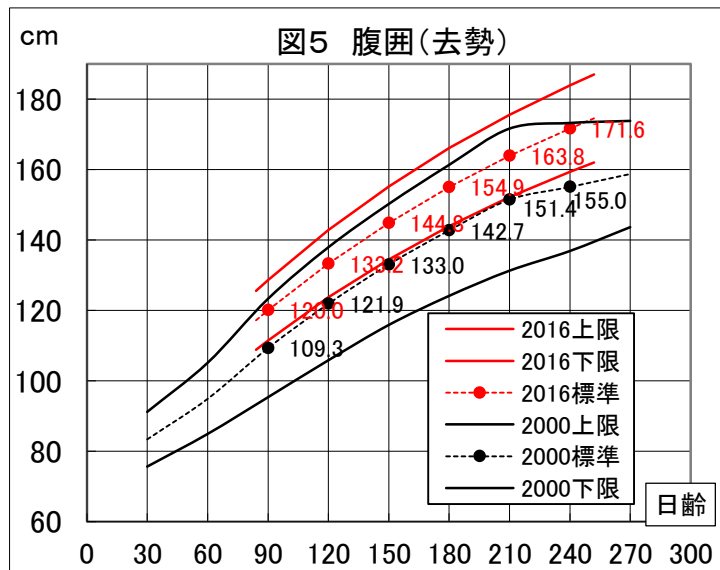
2) 胸囲

2016年版の標準値は、去勢・雌とも2000年版の上限値付近で推移し、2016年版の下限値が2000年版の標準値付近で推移しています。90～240日齢の発育の伸びは、2016年版で去勢39.3cm、雌36.5cmであり、2000年版では去勢34.1cm、雌31.9cmと2016年版の方が上回っています(図3,4)。



3) 腹囲

2016年版の標準値は、去勢で上限付近、雌では標準値と上限値の中央付近で推移しています。去勢では2016年版の下限値が2000年版の標準値付近で推移、雌については2000年の標準値と上限値の間にすっぽりとおさまる曲線となっています。90～240日齢の発育の伸びは、2016年版で去勢51.6cm、雌45.7cmであり、2000年版では去勢48.1cm、雌44.8cmと2016年版の方が若干上回っています(図5,6)。



4) 総括

発育の伸びを見ると、胸囲では2016年版の方が上回っていますが、腹囲では若干程度、体高に至っては、2000年版の方が上回っています。ではなぜ発育の伸びが変わらないのかかわらず、子牛の増体性が良くなっているのでしょうか？

すでにお気づきの方がおられるかと思いますが、**90日齢のスタートラインが違うのです。**

ここ16年で、生時体重は増加傾向にあるものの、生時から90日齢までの発育の伸びが改良されていると考えられます。これは育種改良による遺伝的なものと、みなさんの飼養管理技術の向上による人為的なものと思われます。ではどのくらい改良されているのでしょうか？

3. 但馬牛が早熟化!?

2016年版90日齢の標準値に達するまでに、2000年版ではどのくらい日齢がかかるのか見てみると、各部位ともに3～4週間程度必要となります(表1)。逆に、2016年版ではこの期間分、遺伝的・人為的に子牛が早熟化しているものと考えられます。実際に、家畜市場成績を見てみると、出荷時の体重増加だけでなく、出荷日齢も早期化しています(表2)。

表1. 2000年版標準値が2016年版標準値(90日齢)に達するまでの日数

	体高	胸囲	腹囲
去勢	111日(+21日)	115日(+25日)	116日(+26日)
雌	109日(+19日)	111日(+21日)	112日(+22日)

4. まとめ

今回は、2016年版発育曲線と2000年版発育曲線を比較して、90日齢における標準値が大きく改良され、家畜市場への出場も早まっていることをお伝えしました。農場において、育種改良された遺伝的能力が人為的に引き出しているかをチェックする方法として、90日齢における胸囲を測定することをお勧めします。胸囲は日中変動も少なく、測定尺で容易に測定できます。子牛が90日齢となった時点で、2016年版の標準値である**去勢106cm、雌103cm**以上が確保されているかチェックをしてみましょう。

表2. 但馬家畜市場の出場状況

性別	年度	体重	日齢	日齢体重*
去勢	平成11年度	241	264	0.918
	平成28年度	249	259	0.963
雌	平成11年度	223	275	0.816
	平成28年度	228	267	0.856

*日齢体重=体重/日齢